

【相談内容】

No25.RCT桁橋の補修設計について

○R C床版部の鋼板接着補強後の再劣化（うき）に対する対策方法について

< 状況 >

○1963年に架設されその後、補修工事（施工年度不明）にて、床版及び桁の鋼板接着工法による補強が行われているが再劣化（うき、はくり）を確認



写真一鋼板のうき状況例
（参照：国総研資料第 748 号）

【助言内容】

○鋼板接着工法に関わらず、補修の必要性や工法の選定にあたっては、損傷状況の把握だけでなく、損傷原因の確認および以下のことを整理することが重要

○対象橋梁に求める性能（耐荷性能、耐久性能など）に対する道路管理者の考え

例えば、耐荷性能：現在のまま大型車も通行させる

耐久性能：耐用年数（あと何年持たせる）

○上記で想定する性能を満足させる補修後の耐用年数

○損傷箇所の補修と合わせて、損傷要因の排除も考慮

○一般的にRC床版の鋼板接着補強後の再劣化対策として以下の工法が想定される。

【鋼板接着部の接着剤の劣化】 「接着剤再注入」

【床版のうき、剥離、鉄筋露出】 「鋼板撤去・再設置＋断面修復工＋ひびわれ注入」

【鋼板の腐食 変形】 「再塗装（部分、全面）」や「鋼板撤去・再設置」